

全ての人に居場所と出番のある 地域づくり

メンバー くらさん
たけさん
まみちゃん

地域の「つながり」を分類

- 【 **近隣関係** 】= 居住し生活する所で生れるつながり
「**向こう三軒両隣**」
- 【 **エリア型地域活動** 】= 地縁関係に参加することで生れるつながり「**自治会など**」
- 【 **テーマ型地域活動** 】= 特定の目的で設立された組織への参加で生まれたつながり
「**ボランティア団体、NPO**」

自治会などとは

- 自治会：行政全般（住民の力によって住みよい町をつくるための自主的に運営する自治組織）全会一致の原則、決定期限あり、他団体との連携は慎重
- 公民館：社会教育法に基づく。住民のために実生活に即した教育・学術・文化に関する各種事業を行う
- 育成会・その他：子供の健全育成等

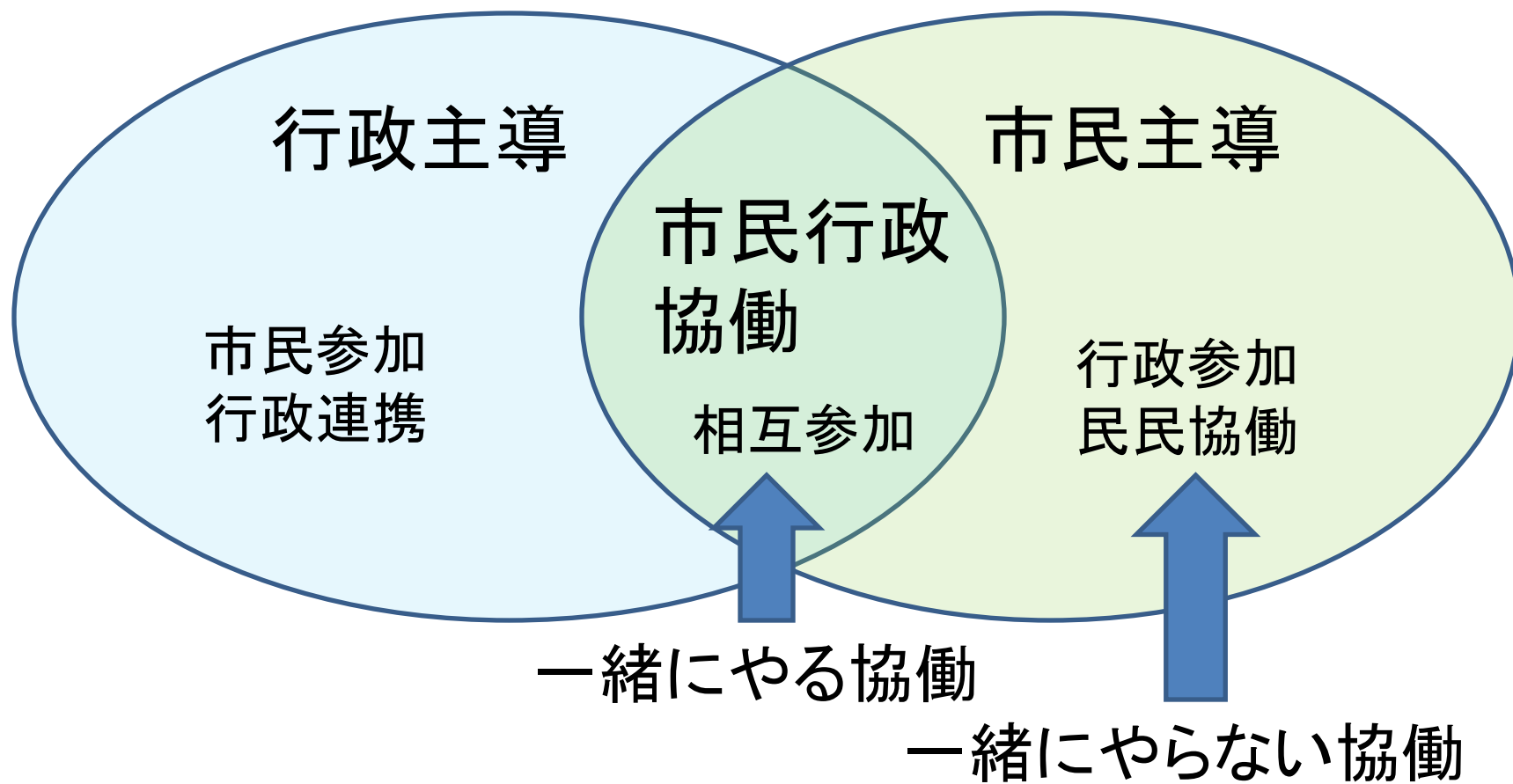
自治会はどんな活動をしているの

- 環境美化、清掃、雪かき、リサイクル活動
- 住民相互、行政からの連絡（回覧板、会報）
- お祭り、敬老会などのイベント、スポーツ・文化、レクリエーション
- 防犯・防災活動、子供・高齢者の安全確保
- 集会施設、生活道路、街路灯等の維持管理
- 行政・議会に対する要望、陳情 など

そもそも自治会とは(上田市自治基本条例抜粋)

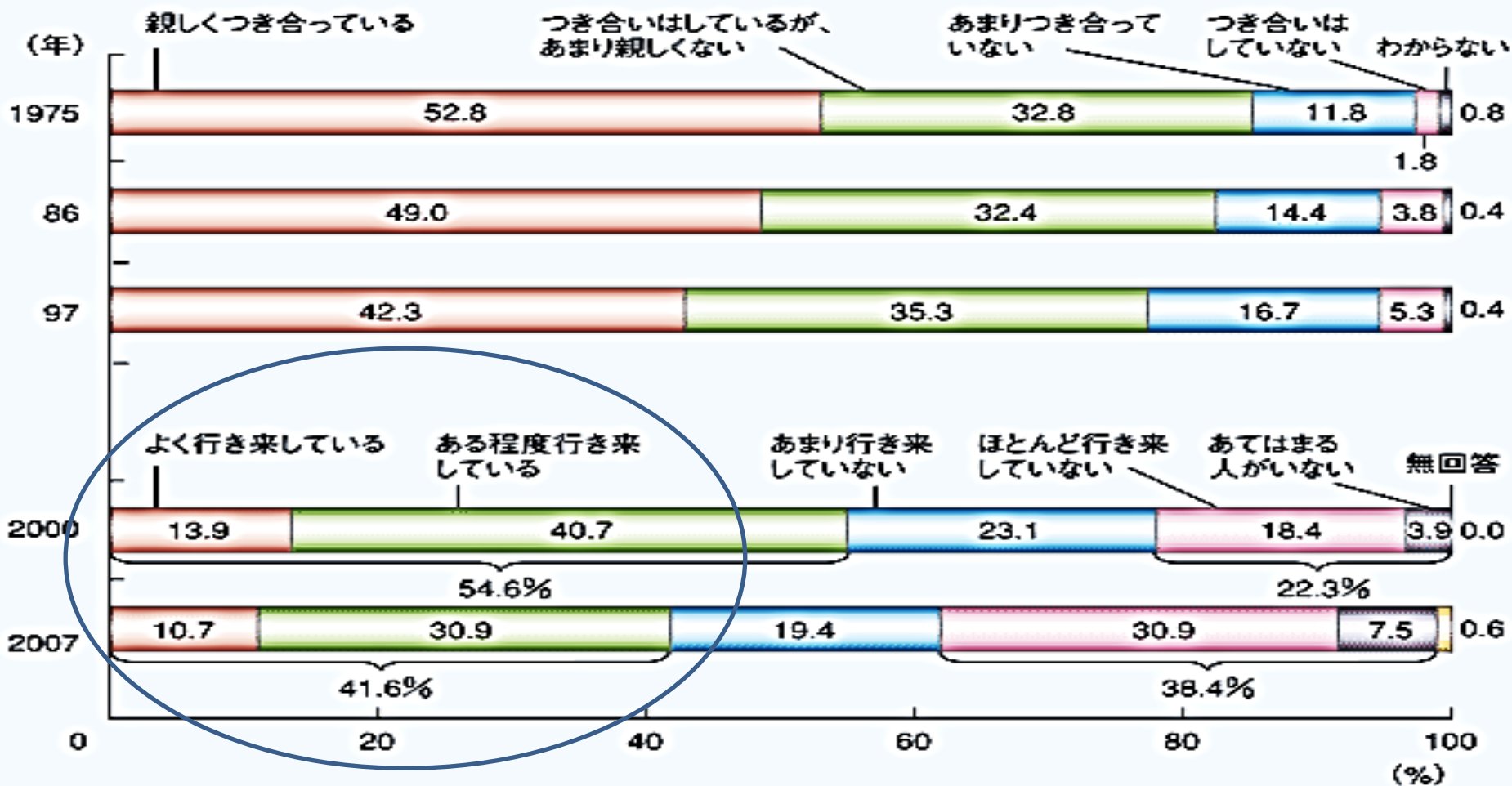
- 地域コミュニティ(自治会、公益的な活動を行う団体など)の役割
 - ① まちづくりの重要な担い手
 - ② 市民が安心・心豊かな地域を自ら形成 ⇔ 行政と対等
 - ③ 地域の課題解決に向け、協働してまちづくりを行う
- 地域コミュニティへの参加
 - ① 市民は活動に積極的に参加し地域コミュニティを守り育てる
- 地域コミュニティへの支援
 - ① 市は地域コミュニティの役割を尊重し、活動促進を支援

協働？



地域の「つながり」の現状は 近隣関係は希薄になっている(H19国民生活白書より)

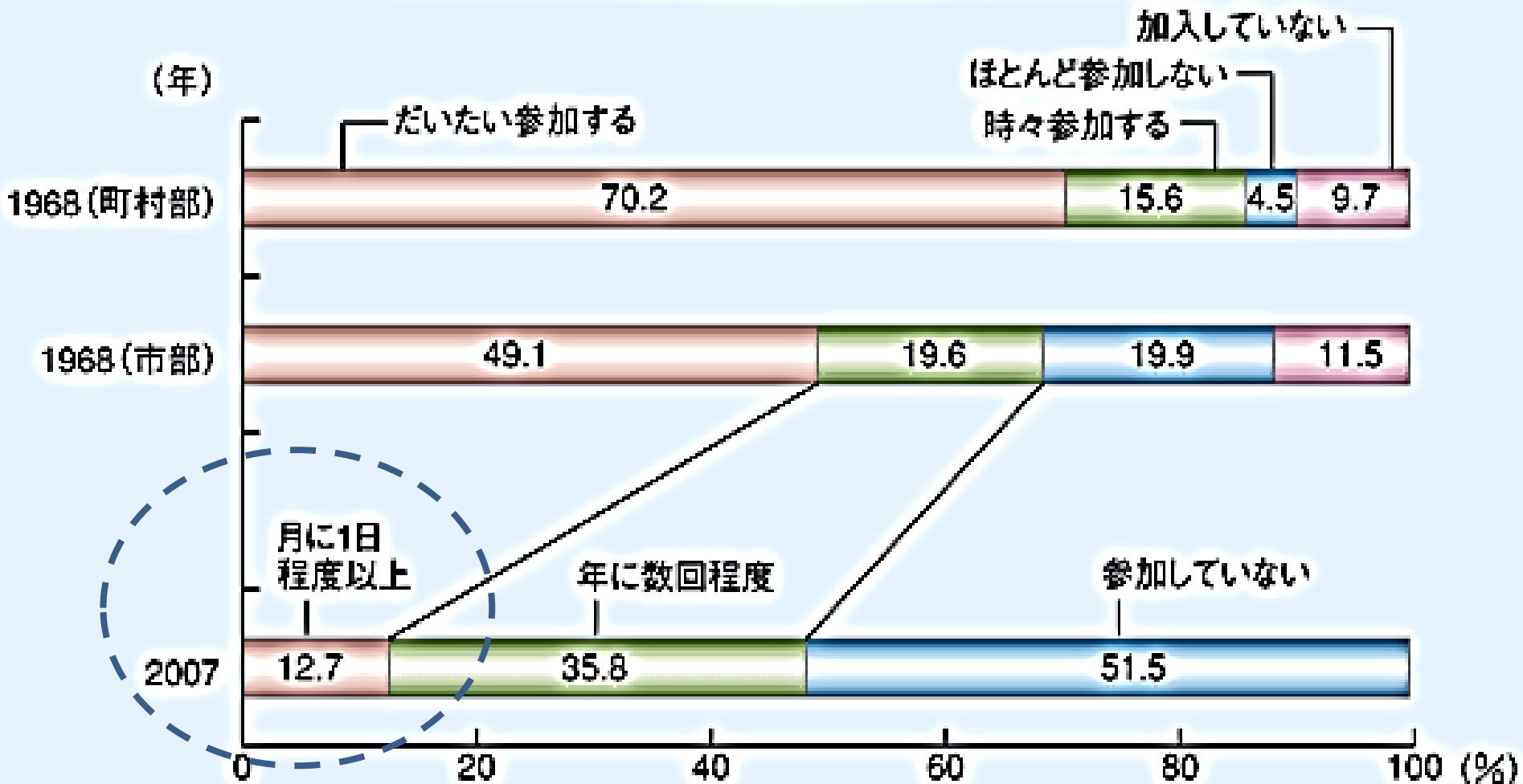
近所付き合いの程度の推移



地域の「つながり」の現状は

自治会への参加頻度は少なくなっている (H19国民生活白書より)

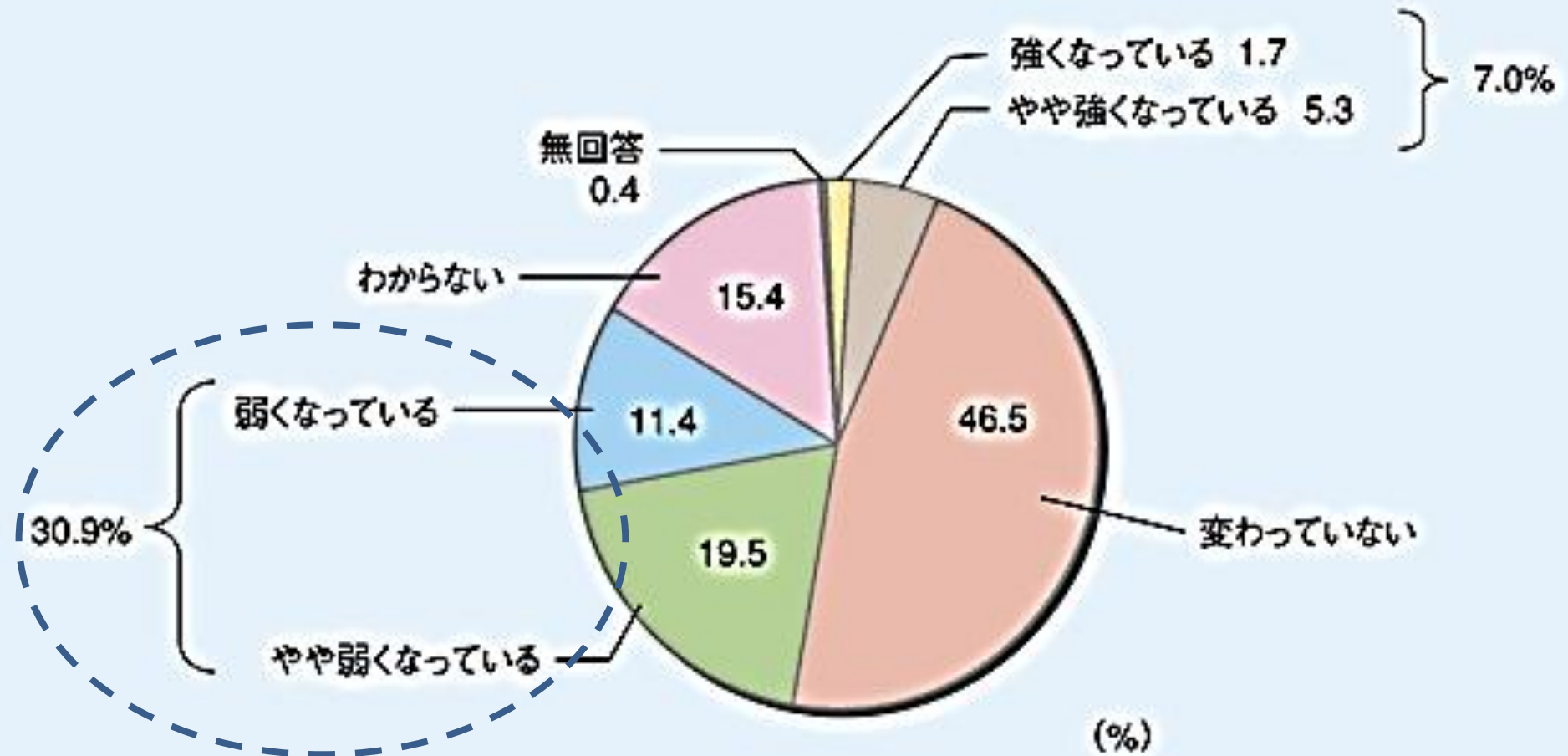
町内会・自治会の参加頻度



地域の「つながり」は10年前に比べて弱くなったと考える人が3割

(H19国民生活白書より)

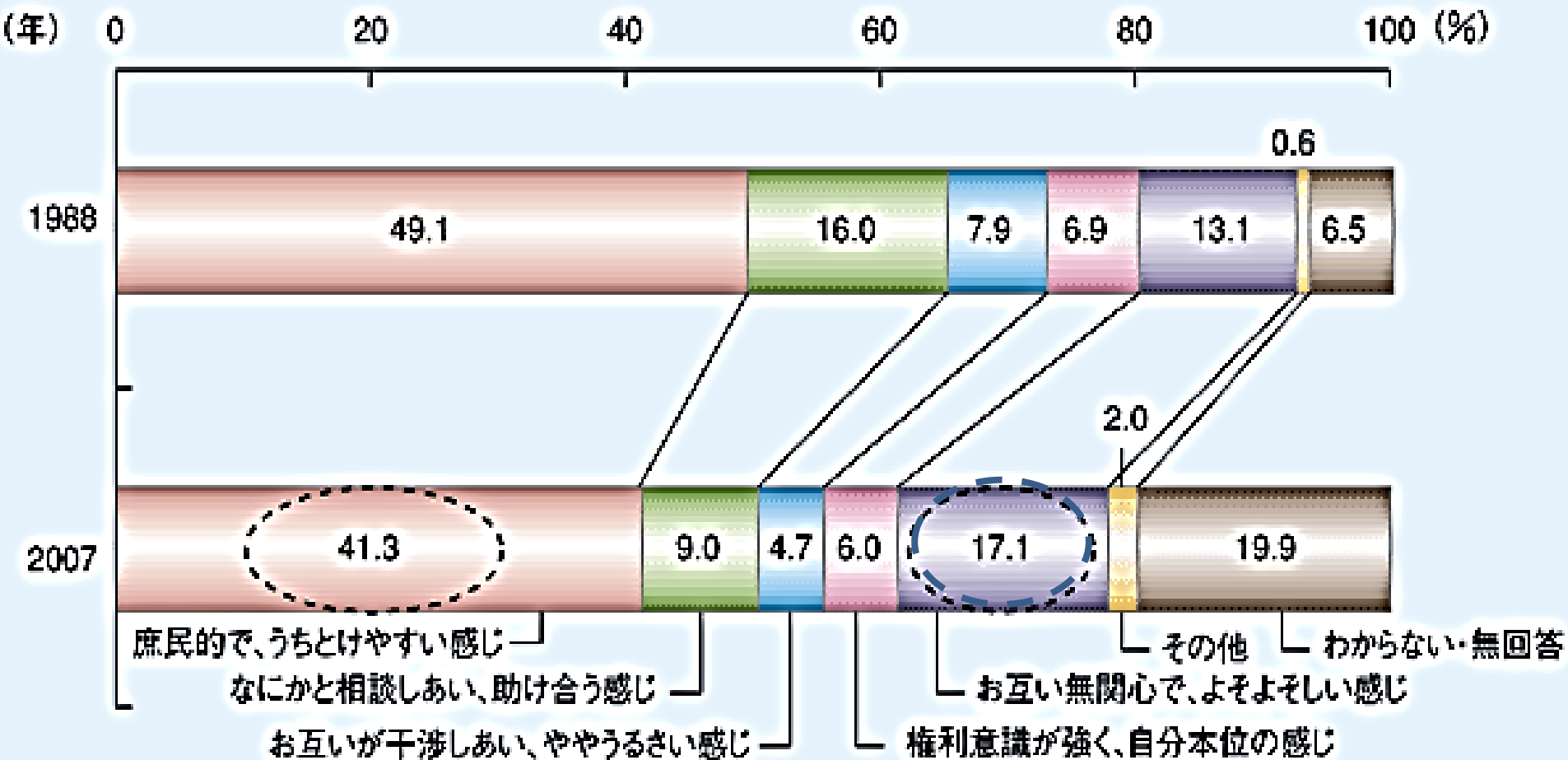
10年前と比較した地域のつながりの強さ



地域の「つながり」が弱まった状況

無関心で、よそよそしい地域が増 (H19国民生活白書より)

住んでいる地域の土地柄



自治会活動の課題

- 無関心な人が増加
- 地域に束縛されない個への欲求の高まり

- 参加者の減少と固定化
- 若い人の参加意識の低下
- 女性の参加が少ない

- 役員のなり手がいない
- 役員の固定化

自治会の参加者が少ないわけ

- 意識・価値観の変化（ミットが不明23%）
 - ① 深い近隣関係を望まない人が増加
 - ② 多くの人は困った時に助合う関係を望む
- 就業の有無・多様化（多忙28%）
 - サラリーマン（労働・通勤時間の長時間化）
- 単身世帯、賃貸共同住宅の増加（役員になりたくない19%）
- 情報・きっかけがない
（活動が不明33%）



【提案1】
会報、メール等

提案1：自治会が情報発信しやすい 仕組みづくりを支援

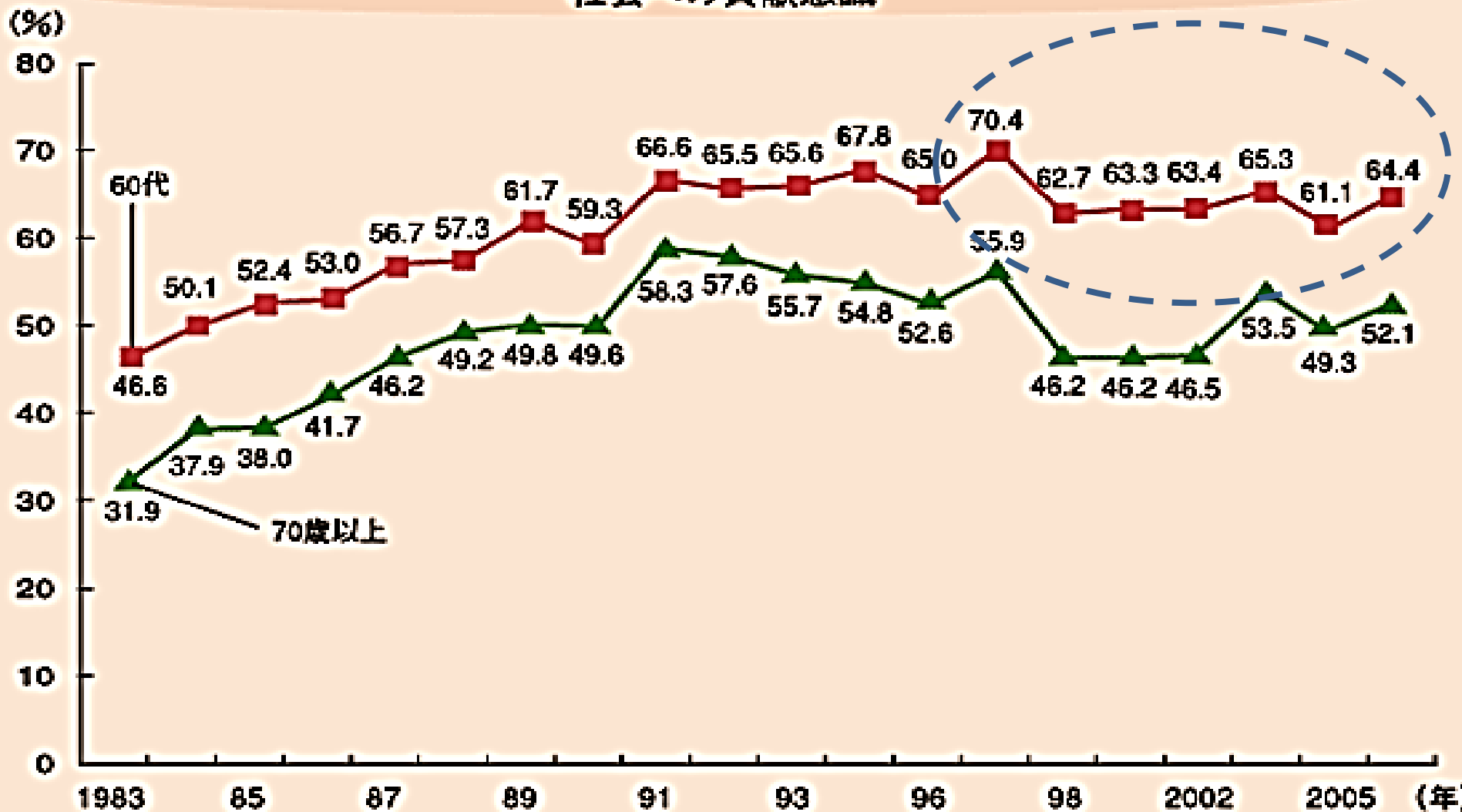
- 自治会が定期的に情報発信しやすくするために、市（公民館）は会報・分館報作成グッズを配布
- 会報・分館報作成講習会の開催
- 市（公民館）は自治会役員に最新情報をメール配信。
SNSを活用したサポート体制の整備 → **口コミ情報**

情報共有が図られ、
つながりにより豊かな市民生活が創造される

高齢者に地域と「つながる」社会貢献意識の高まりが

(H18国民生活白書より)

社会への貢献意識



高齢者の考える 地域貢献活動とは

- ① 環境美化、リサイクル活動
- ② スポーツ・文化活動の指導
- ③ 自治会活動、防犯・防災・交通安全確保



自治会活動など

- ④ 社会福祉(老人や障害者などに対する介護、身の回りの世話、保育など)
- ⑤ 病院ボランティアなど
- ⑥ 公共施設での展示説明員



ボランティア団体
NPO

- ⑦ 自分の仕事を通じて社会貢献
- ⑧ 子育て支援(学習活動への指導・助言)



【課題】
活躍の場が
ほしい

高齢者が社会貢献活動に参加したいわけ

- 自分自身の生きがい
- 様々な人と交流
- 自分の知識や経験を生かす機会
- 幅広いネットワークを生かし、恩返し
- 健康のため
- 人助け など



しかし、実際の行動に移している人はそれほど多くない

地域から高齢者に期待されるもの

- 専門の知識、技能技術
- 交渉・対外折衝能力
- 企画能力
- 全体の運営能力

- さらに、熱意・意欲が充実
- 時間的な余裕

高齢者の地域との「つながり」の実態

- 男性の36%は退職が社会貢献活動開始の契機
 - しかし、参加する高齢者は少数派26.4%
 - 関心はあるけど、ためらっている理由は
 - ① 仲間がいない
 - ② 情報の不足
 - ③ 健康・体力への不安
 - ④ 家庭の事情（病院、家事、仕事） など
- **【提案2】
地域貢献の場の提供**

提案2：高齢者の宝を掘り起こそう


- 隠れた人材の発掘（高齢者等の得意分野・地域で役立っても良いと考えている分野を自治会に登録）
- 自治会が登録者による「共に学び教え合う活動（地域貢献の場）」を設置。
- 「子育て分野」への高齢者の力を借りる
- 活動費を助成（資料代、茶菓子代）



高齢者にも居場所と出番があり、住み続けたいと感じて頂ける、愛着が増す地域づくり

提案3：市民協働まちづくりの場を設定

- 自治会は人材（高齢者など）の宝庫
- 市民が協働作業（道水路整備など）で一緒に汗を流す→達成感を共有→一体感が醸成
- 人材を生かす市民協働まちづくりの場を設定



コミュニティの再生(つながり・信頼・参加・交流)
地域の絆が深まる
社会が元気になる。豊かな社会が具現化

提案4：自治会活動に、女性が参画しやすい楽しい環境を作ろう

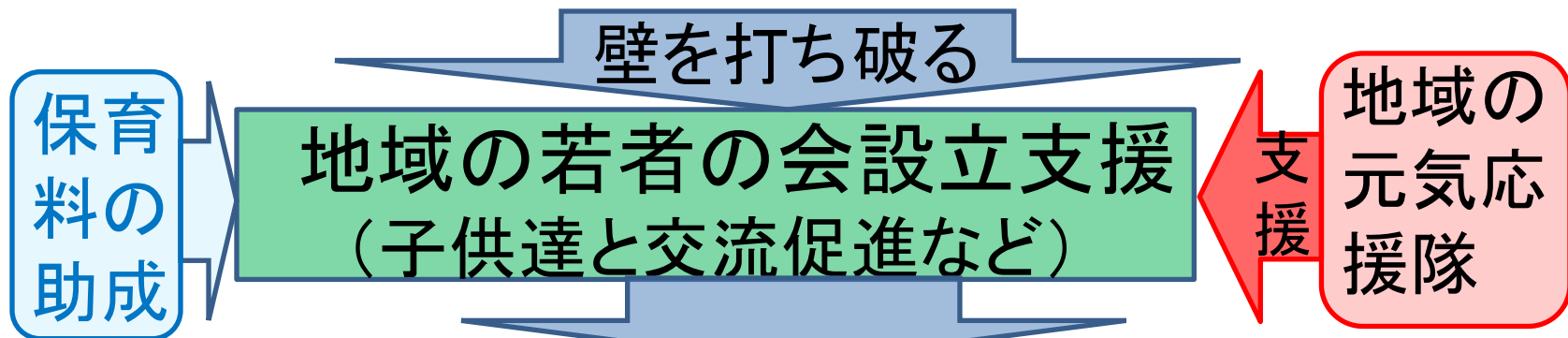
- 女性は多忙（育児、家事、介護、仕事）
- 女性が元気な地域は、全体が元気
- 方針決定への参画→感性とアイデアが生きる自治会
- 役割分散で女性の負担を軽減

役員の複人数化、グループ化

- ① 自治会を女性の微笑みが絶えない憩いの場にすると、子供・夫・家族も一緒に参加。
- ② かゆい所に手が届き、子供や高齢者に優しい地域
- ③ 女性のチーム力が大きな力を発揮。

提案5：地域の若者の会の設立 を支援しよう

- 若者は仕事等が多忙。地域に束縛されたくない。
- 一方、子育て世代の若者は、地域やPTAなど地域情報に関心はあるが情報源が不明



- ①若者が増え、飲食店等まちが賑わう。
- ②若者の交流が活発化。
- ③若者が地域情報を把握。
- ④将来の自治会後継者が育成。

提案6：地域づくり支援員等の配置

- 市（公民館）は、地域づくり支援員（仕掛け人）を配置。自治会の活動をコーディネート
- 支援員は、住民のワークショップを仕掛ける
- 総合的にプロデュースできる人を確保・育成
- 地域の元気応援隊（地元の若手市職員等有志）を
結成



個人の強みが活かされ、居場所と出番のある地域づくりが進む

提案7:自治会活動交換会 「ご近所の底力」の開催

創意工夫を教え合おう
わが町の宝物を発見しよう
住みやすいところを競い合おう



住む場所を
選択する時代

連合自治会主催活動交換会
「ご近所の底力」

自治会の役割や活動の見える化

- ・ 個性化、地域連携が促進
- ・ 問題意識・課題解決方策の共有化
- ・ 住みやすいコミュニティ50選の作成による波及

提案8：長野大学と連携して、引続き地域づくり講座を継続実施

- 長野大学等の地域づくりスペシャリストの的確なアドバイスは、自治会活動のステップアップに繋がる
- 先進事例調査を取り入れる
- テーマによっては、学生の参加があって良し



市民生活の満足度が増す

地域の「つながり」が生み出す効果

- 近隣関係は私達に安心感をもたらす
- 地域活動は私達に生活の充実感を与える
- 地域の「つながり」は私達の生活の質を高める
- 新しい友人ができ、健康や体力に自信がつき
- お互い助け合うことができる
- 自分の知識・経験・技術を生すことができる



居場所と出番のある地域づくり
助け合う暮らしの構築

全ての人に居場所と出番のある地域

- 安らぎを感じる住空間
 - ① 家族(多世代)と暮らす生活の拠点
 - ② 隣近所と適度に行き来
 - ③ 自由が確保できる場
 - ④ 持ち家
- 全ての人が居場所のある住空間
 - ① 地域内での様々な人とのつながりがある
 - ② 価値観を共有できる仲間がいる
 - ③ 地域・社会貢献により達成感、充実感を味わえる
 - ④ お互いを認め合い、地域への愛着心が深まる

おわり

ご清聴ありがとうございました。